

## 日本医学会分科会活動報告

一般社団法人 日本職業・災害医学会  
理事長 佐藤 譲

### a 特に学術的に重要と考えられるもの

この5年間で日本職業・災害医学会誌に掲載された原著論文の中で学会賞を受賞した5つの業績を列記する

#### (1) 「職業性胆管癌の疫学研究」

印刷業の校正作業員においてみられた胆管癌の多発し社会的に注目を集めたが、入院患者病歴データベースを用いて胆管癌が発症と職歴、有機溶剤使用（有機溶剤の化学物質排出移動量届け出制度から推定）と腫瘍占拠部位を疫学的に検討し、製造業を含め通常の労働安全衛生対策が実施されている職域では有機溶剤による胆管癌発症リスクは高くないと結論づけた職業性胆管癌の疫学的研究は社会的に意義ある研究結果と考える。

（2）「病歴データベースによるじん肺患者における ANCA（好中球細胞質抗体）関連血管炎・腎疾患発症頻度の検討」は（1）と同様、1984年以降独立行政法人労働者健康安全機構が全国の労災病院の入院患者を対象として構築した職歴と病歴から構成される労災病院病歴データベースを用いた知見であることが注目される。

（3）「中高年勤労者における生活習慣及びその関連因子に及ぼす筋肉量の影響」は長らく当学会が関わってきた勤労者における生活習慣病の研究の一環としてサルコペニアに主眼を置いた独自の研究と言える。「毛髪に含まれるコルチゾール濃度を指標とした3交代勤務と2交代勤務のストレス度の比較」は女性勤労者における職業性ストレスに関する領域での優れた研究業績を示したものであり「日本における一般人の肺内石綿小体濃度」は当学会が検討をかさねてきた塵肺や石綿暴露に関する研究の延長線上に連なるものである。

### b 当該領域における国際的役割

当該領域において国際的な役割についてはこの5年間の実績として報告すべき点はない。

### c 活動からもたらされている社会的意義

当学会は当初労働災害により生じた筋骨格系、脊椎脊髄損傷を中心に活動が行われてきたが、その後の産業構造、社会形態の変化に応じて、アスベスト、塵肺、勤労者におけるメンタルヘルスや生活習慣病、治療就労両立支援など職業医学、災害医学の領域で研究が拡大され成果を上げている。

### d 学会運営上留意している点

労働医学、災害医学の分野における社会医学としての研究に基盤に置きながら臨床的視点も取り入れて職業性疾病に関する研究を医師および医療職にて推進、支援していることを強調したい。

## II 他の分科会との連携による活動

2018 年度の学術大会では日本災害医学会とのジョイントシンポジウムとして「災害への備えー受援に向けた保険・医療体制の構築について」を開催した。

2021 年度の第 94 回日本産業衛生学会にて共催シンポジウムとして「両立支援における医療機関と産業現場での連携～診療報酬改定及び新型コロナ禍におけるリモートワークのなかで」に参加した。